

大阪の家なき幼稚園

氏 原 銀

大阪の家なき幼稚園は、教育家橋詰良一氏の經營で目的は、大阪市内の子供の遊ぶに空地なく摘むに草なく人家稠蜜の場所に在りてのびのびした遊びの出來ず、常に其本質を壓迫せらるる境遇を氣の毒に思ひ、其活動性に満足と與へんものをと、自動車により幼児を郊外の空氣清きひろびろとした自然界に運び、自然に接觸なさしめんとするに有り、最初此自動車使用せんとする考案を立てた時氏は多大の苦心を拂へり。先づ之れが使用の利害得失を調査研究せんには、幼児の自動車で通園する學習院の幼稚園の外なきを思ひ、遠く大阪よ

り上京して、之れが實際を取調べ、尙運轉上の實驗等に付ても巨細に聽取し種々研究を重ねて使用に危険なく安心なる信念を得て初めて之れが實施を決せり。然る處此購入に多額の費用を要する上に、幼児三十餘人乗りの特殊の構造の別誂への車でなければならず。茲に至て大に當惑種々考慮の結果、大阪市に敬神家にして篤厚家なる帶谷氏に、都會の幼児に對する氏の純眞愛より出て、野外保育の主旨に自動車新調寄附の事を懇囑されました處、帶谷氏は此寄附を快諾せられ始めて愁眉を開かれたり。斯の帶谷氏の義侠の感激と共に、橋詰

氏の都會幼兒の爲めに、獻身的に苦心せられし事を感歎す帶谷氏の自動車の出額は四千圓なり。

此開園記念號なる帶谷氏寄贈の自動車は、大正十三年九月出來爾來今日に至る六年間の經營上には時に困難ありしも能く之れに克堪せられ進展の状況を見る。本年七月には第三號目の自動車新調が父兄達の理解ある精神の融合により出費せられ二三年の償却法によりて心配なく出來上りたり之れ橋詰氏の誠意の反應と言ふべし。

此自動車で幼兒を郊外に運ぶ方法は、市内に六十餘ヶ所の幼兒集会所を設けて、毎朝自動車は此集会所より幼兒を乗せて郊外に連れ出し、午後は又此集会所に幼兒を降して歸宅さすもので此方法により幼兒を廣き美しき自然界に連れ出し其本能に満足を與へ、天惠の自然物を以て恩師として保育す。此の如き、自動車利用の自然保育は世界何れの大都市にも實現せられて居ないもの、唯此橋

詰氏經營の有るのみ茲に氏の今日の成功を祝し其創立當時の苦心を記るし此特殊保育を紹介す。

尚橋詰氏は自動車によらずして、野を其儘の家とする自然幼稚園を、大阪市附近に四ヶ所を經營せられ各園共に其自然保育法により益々盛況に發展せり。

悲運な子のため保護事業の會議

中央社會事業協會が開催（東京日々新聞所載）

無邪氣な少年少女が僅の金で買ひ取られ遊藝門付、物賣り等に虐待され或ひは親の失職から食にもろくありつけぬ憐れな子供は不景氣の深刻化するにつれ益々憂慮さるべき状態を見んとしてゐるので中央直會事業協會は主催となつて十一月十八日、十九日、二十日の三日間第二回全國兒童保護事業會議を明治神宮外苑日本青年館で開催し、全國府縣公私社會事業關係者五百名を招集して協會から提出する。

被虐待兒童問題、兒童給食問題兒童保護聯盟協會設立の三問題を中心として審議を重ね更に第一部會兒童保護、法規問題第二部會妊産婦保護、育兒、託兒、未就學兒、勞働兒第三部會身神異常兒、被虐待兒に分つて協議することに決定した。